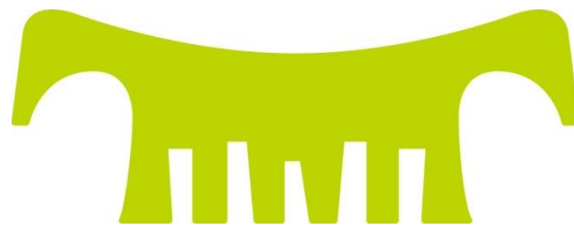


天王寺動物園 101計画 (いちまるいち)

～おもろい・あきない・みんなの動物園をめざして～

<概要版>



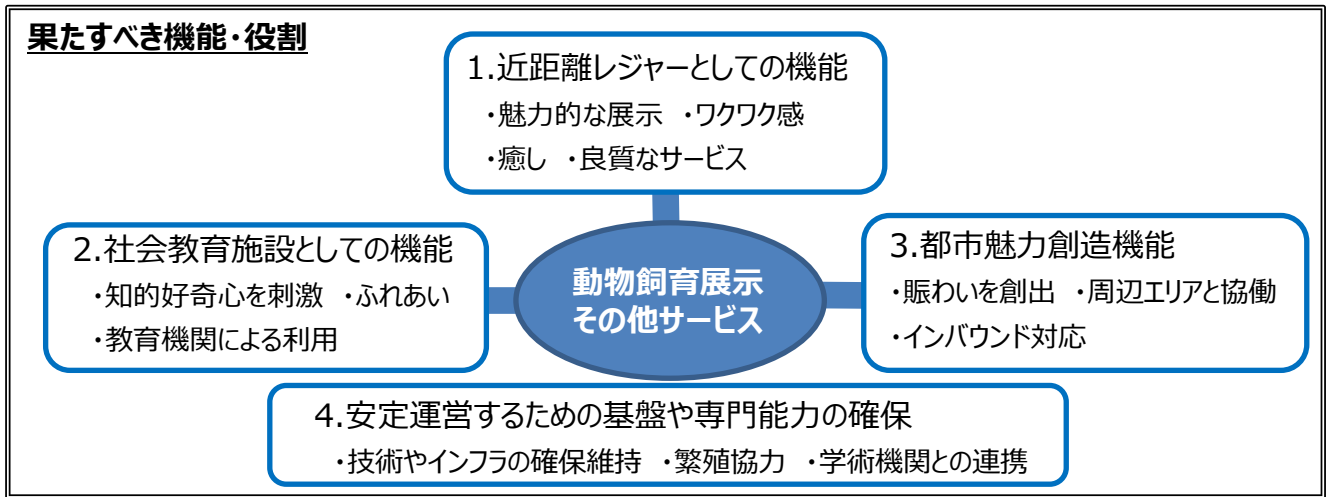
(素案)

平成28年7月
大阪市

大阪の地で100年にわたって愛されてきた天王寺動物園が101年目に策定する計画として、以下のコンセプトに沿って進め、公立動物園としての機能・役割を果たしていけるよう、次の100年に向けて頑張っていきます。

(いちまるいち)
『天王寺動物園101計画』
 ～おもしろい・あきない・みんなの動物園をめざして～

- 基本コンセプト**
- 大都市大阪にふさわしい都市型動物園
 - 憩い・学び・楽しめる都心のオアシス
 - 動物本来の行動を引き出す「進化型生態的展示」



市民が求める将来の動物園像

集い、つながり、参加する都心のコミュニティ。みんなの「動物公園」

101計画策定の経緯

天王寺動物園は、大正4(1915)年に日本で3番目に開園した、100年を越える歴史を有した動物園です。

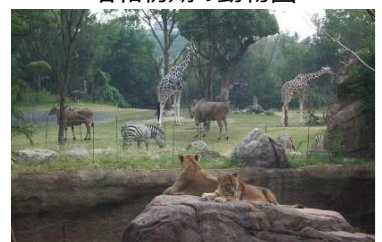
これまで施設整備や希少動物の入手を進め規模の拡大を行ってきましたが、本市の財政難や動物園自身の経営努力不足などもあり、平成25(2013)年度には平成に入ってから最低の入園者数を記録するに至りました。

動物園の改革・改善を継続的に実施していくため、まず平成27(2015)年8月に天王寺動物園が果たすべき意義と役割を改めて整理し、目指すべき今後の方向性を示した基本構想を策定しました。

そして、この基本構想を実現するために必要な具体的な方策を取りまとめたのが、この「天王寺動物園101計画」(素案)です。



昭和初期の動物園



アフリカ・サバンナゾーン

動物園は、動物の生態を学び、命の大切さを伝える「学習・教育の場」である一方、希少な生きた動物を見ることができ、家族やグループ、個人といった様々な方にとって楽しい時間を過ごす「レジャーの場」でもあります。

本計画では、来園者に魅力的な動物展示と非日常的なワクワク感のある園内環境を通じて、楽しかった、また来たいと思っていただける動物園を目指します。

魅力あるコンテンツの開発とその発信

メインコンテンツである動物展示の強化	魅力的な動物の導入や繁殖、野生本来の行動を誘発する動物展示、体験・体感活動、動物舎前での情報提供・発信を強化・推進します。
魅力的なイベント企画づくり	ナイトZOOのような大型イベントから、小さなワークショップまで多様なイベントを企画し、動物園内で大きな賑わいを創出します。
広報・プロモーション	園内でのコンテンツや企画を多くの方に知ってもらうため、広報ネットワークの拡大やタイムリーな情報発信を行い、情報発信力を高めます。



繁殖に成功したホッキョクグマ



ナイトZOO

顧客視点からの魅力向上策の展開

ワクワク感を持った空間の提供	非日常空間の演出、楽しさを醸し出すような情報発信を行い、来園者がワクワク感を感じられる空間づくりを行っていきます。
来園者の快適さの向上	「来てよかった、また来たい」と思ってもらえるような快適な園内環境を実現します。併せて、段差の解消など、ユニバーサルな動物園を目指します。
魅力的な飲食物販サービス	来園者ニーズにマッチした飲食物販施設を再配置するとともに、来園の思い出となるオリジナルグッズの開発などにも力を入れていきます。
何度も来場できる仕掛け	来園者ニーズの高い「年間パスポート」を導入します。
CS向上のための改善活動の推進	来園者に動物園を楽しんでいただくためにできることを第一に考える職員体制を構築します。
天王寺・阿倍野エリアと連動した魅力向上	公園内の各施設や周辺エリアとの連携協力を進め、動物園周辺の天王寺・阿倍野エリア全体の賑わいを創出していきます。
インバウンド対応	多言語ホームページの整備など、近年著しく増加している外国人観光客へのサービスの充実を図っていきます。

外部からの連携・協働による動物園の活性化

ボランティア・NPOとの協働	動物園をボランティアやNPOが活動しやすい場にし、市民とともに「私たちの動物園」を作り上げていきます。
個人からの寄付	個人からのサポートの受け皿を作ります。
企業からの寄付・スポンサード	企業とのWin-Winの連携によって、動物園活動がさらに活性化する連携手法を模索します。



ボランティア活動の様子

野生動物の生息数の減少などにより動物の入手はますます困難になっています。動物園活動を安定して継続していくためには、適切な飼育管理や繁殖による飼育動物の安定的な維持、野生動物を取り巻く環境についての教育普及活動などが必須です。

本計画では、動物園が本来有すべき機能を向上させ、持続可能な運営を目指します。



環境エンリッチメントの取組み

飼育管理機能の向上

動物飼育管理技術の向上	研究会や講習会への参加など、飼育管理担当職員が継続的に学ぶ機会を確保し、技術力の維持・向上に取り組みます。
飼育個体の維持・確保	コレクション計画に沿った動物の確保・繁殖を進めるとともに、国内外の動物園との繁殖協力を行っています。
動物福祉の向上	環境エンリッチメントやハズバンダリートレーニングなど、動物園の動物たちが健康的に生活できるような取組みを推進します。
生物多様性の保全	絶滅の危機に瀕する動物種が増加するなか、動物園の専門性を活かして生物多様性の保全に協力していきます。



絶滅が危惧される
アジアゾウ

社会教育機能の向上

楽しみながら学ぶ ～環境教育、命の教育～	堅苦しい勉強ではなく、動物を通じて楽しみながら環境問題や命の尊さについて学ぶことのできるプログラム開発を行っています。
学校教育との連携	アクティブ・ラーニングの場としての動物園利用を促進し、学校教育と連携した教育活動を推進します。



サマースクールの様子

調査研究機能の向上

大学等の研究機関等との連携	未知の部分が多い野生動物に関する学術的な研究の進展は飼育管理の向上等に大きなメリットを生みます。そこで、動物園を開かれた研究フィールドとして開放し、大学等の学術的な研究機関との連携を進めます。
動物園独自の調査研究能力の向上	飼育動物を継続的に維持していくために、動物の繁殖や健康管理に対して科学的な調査研究能力を向上させます。



獣医による治療



これまでの天王寺動物園の展示手法は、動物が自然に近い環境で暮らす様子を再現した「生態的展示」と言われる展示を進めてきました。

本計画では、この「生態的展示」の良さを残しつつ、動物本来の活発な行動を引き出す「進化型生態的展示」を目指します。また、都心のど真ん中にある貴重な緑を活かしつつ、動物たちが健康で幸せに暮らせるようバックヤードの充実などにも留意した施設整備を進めます。

さらに、環境にやさしい施設づくりを目指します。

スケジュールと事業規模

本計画では、開園状態を前提にローテーションで施設整備を進めていき、事業期間としては平成29(2017)年度から平成48年(2036)年度までの約20年間を想定しています。事業費としては、約85億円を想定しています（整備済みで継続使用する施設の大規模改修除く。）。

	第1期 (H29～33)	第2期 (H34～38)	第3期 (H39～43)	第4期 (H44～48)
動物舎	海洋動物ゾーン ふれあい・家畜ゾーン アフリカの森ゾーン	東南アジアの森ゾーン 日本の森・里山ゾーン アジアの森ゾーン【拡張】 新夜行性動物舎 適応の世界エリア	アジアの高地ゾーン 新猛禽舎	オセアニアの草原ゾーン タイガの森ゾーン 将来ツル舎 南米の森ゾーン
				
	てんしばゲートひろば (動物学習施設等)	楽しみながら学べる 動物学習施設	新病院・研究棟/ 調理場	非公開飼育エリア
	てんしばゲートひろば (スーベニアショップ等)		新世界ゲートひろば (総合案内所等)	

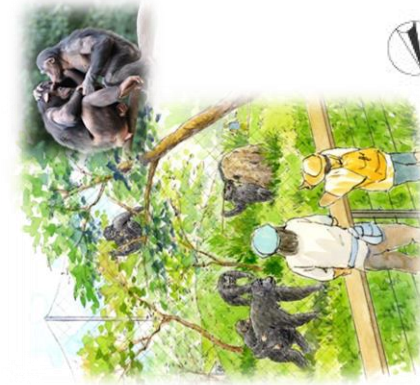
快適な飲食施設を整備

ゾーニング (案)

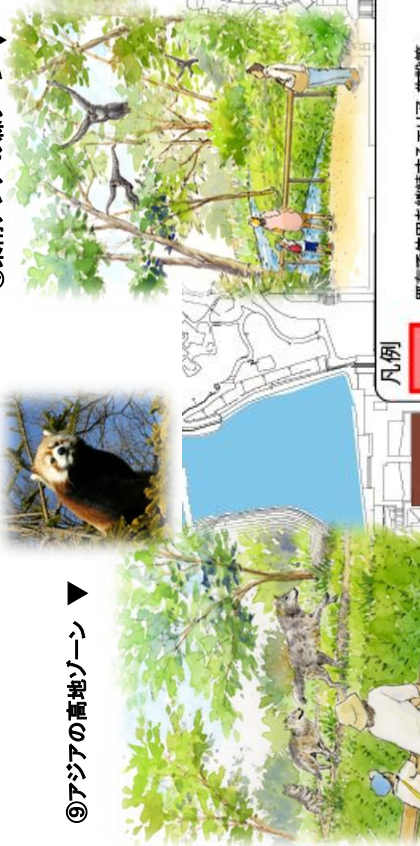
「生息地別展示配列」と「動物行動学的テーマ」をリンクさせた、環境への気づき意識を高め、動物にとっても豊かな生活空間の中で暮らすことができるゾーニングを目指します。

設定していた動物種が導入困難になった場合は、計画の変更を許容します。

③ アフリカの森ゾーン ▼



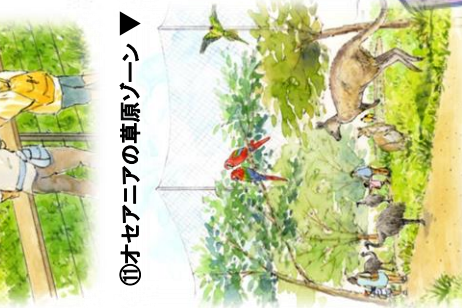
④ 東南アジアの森ゾーン ▼



② ふれあい家畜ゾーン ◀



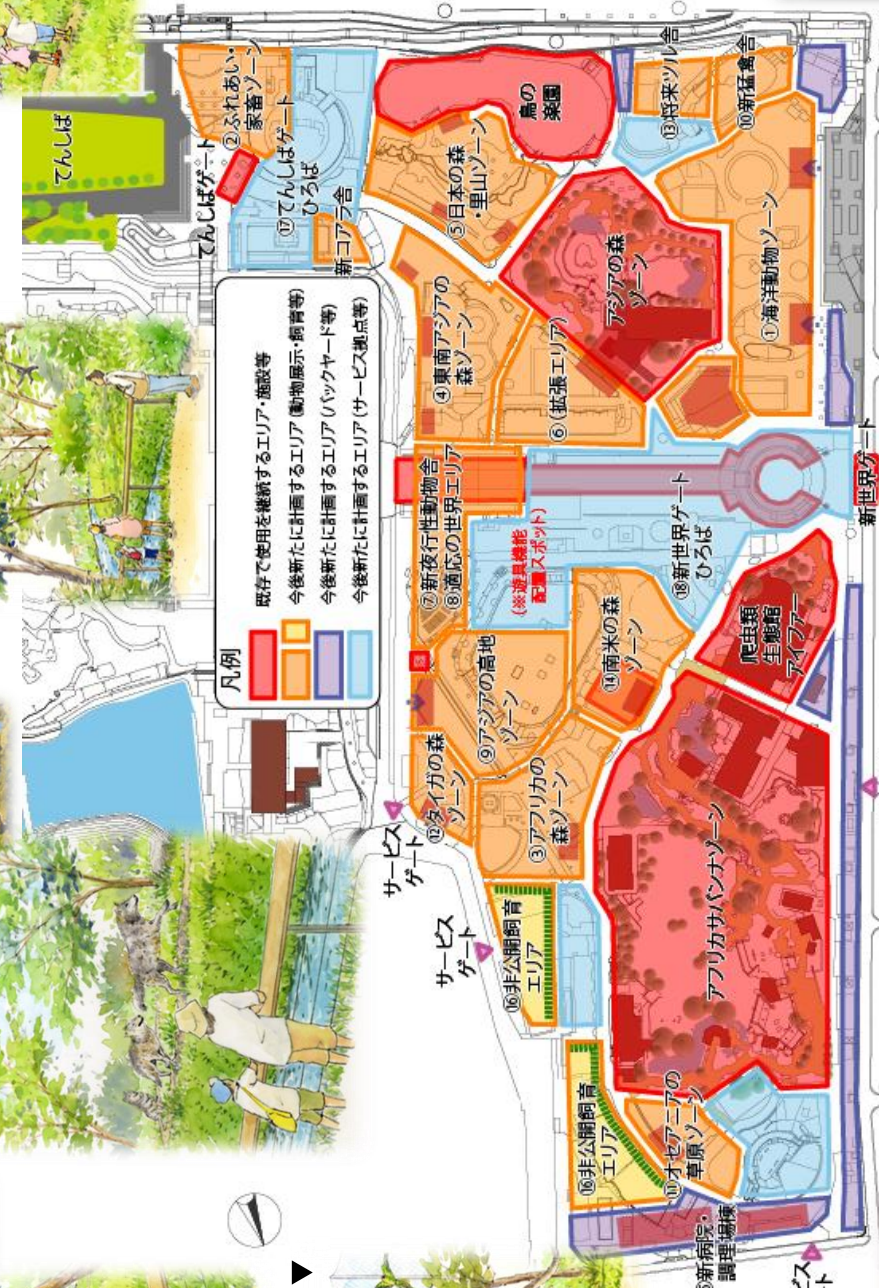
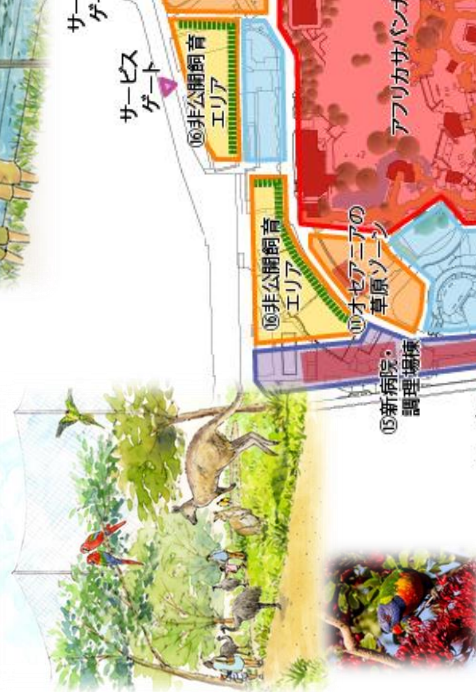
⑩ オセアニアの草原ゾーン ▼



⑤ 日本の森・里山ゾーン ▼



⑪ オセアニアの草原ゾーン ▼



サービスゲート

サービスゲート



5 快適なトイレの整備 ▲

アフリカサバンナゾーン【既設】▲

▲ 南米の森ゾーン

▲ 海洋動物ゾーン

現在の天王寺動物園は、経常的な収支において、収入で支出の半分もまかなえていない（公費負担率が50%を上回る）経営状態となっています。

これを改善するため、入園者数の増加などによって収入増加を目指す一方、不断の支出削減に取り組み、公費負担率を低減させます。併せて、動物園の運営に望ましい経営形態の検討についても進めていきます。

また、今後の施設整備計画によって、経常収支のほかにさらなる市税負担が生じることから、動物園自身としても様々な経営努力を行い、施設リニューアルと入園者数増の好循環にのせることを目指します。

2つの経営目標 ～経常収支～

1. サービス改善の取組みなどによって入園者数 175万人を達成します。
2. 公費負担率を50%に圧縮し、さらに削減を目指します。

施設整備費の市税負担低減

1. 動物舎等建設にあたっては、PFIをはじめとする民間活力の導入可能性の検討など、施設整備費そのものの低減の可能性を検討していきます。
2. クラウドファンディングや動物舎へのネーミングライツ、ふるさと納税などの寄付など、入園料外収入獲得の取組みを行い、市税負担の縮減を目指します。

